

2022年3月期 第1四半期(累計) 連結決算ハイライト

1. 連結業績概要

第1四半期(累計)	実績	
	2021/3期 第1四半期	2022/3期 第1四半期
売上高	18,870	24,995
営業損益 (営業損益率)	△ 1,054 (△5.6%)	1,399 (5.6%)
経常損益 (経常損益率)	△ 1,403 (△7.4%)	1,403 (5.6%)
親会社株主に帰属する四半期純損益 (純損益率)	△ 1,151 (△6.1%)	726 (2.9%)
自己資本当期純利益率(ROE)*	△ 8.4%	5.1%
自己資本比率	33.1%	36.4%
純有利子負債(有利子負債-現預金)	37,334	33,810
設備投資	1,688	1,368
減価償却費	2,088	2,282
研究開発費	451	476
連結子会社数	33	33
為替レート(1USドル/円)	108.83	110.71
為替レート(1ユーロ/円)	119.55	129.80

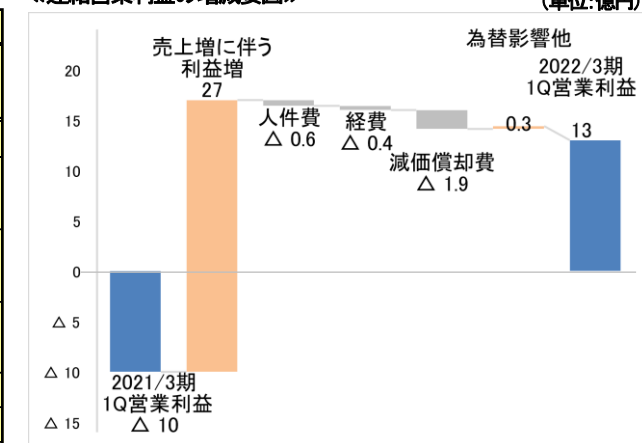
前年同四半期比	
増減額	増減率
6,124	32.5%
2,454	-
-	-
2,806	-
-	-
1,878	-
-	-
13.5%	-
3.3%	-
△ 3,524	△ 9.4%
△ 320	△ 19.0%
193	9.3%
25	5.5%
0	-

*左記が替レートは各期3月末TTMレート

予想	
2022/3期 第2四半期	2022/3期 通期
50,000	92,000
2,200	3,500
(4.4%)	(3.8%)
2,100	3,200
(4.2%)	(3.5%)
850	1,700
(1.7%)	(1.8%)
-	-
-	-
-	-
-	-
110.58	105.00
131.58	126.00

6月末TTMレート

<<連結営業利益の増減要因>>

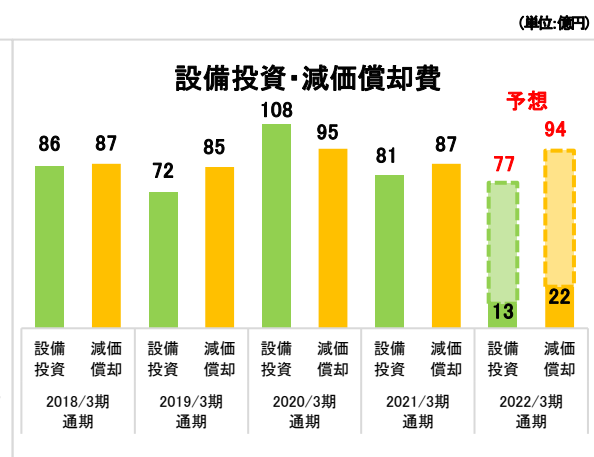
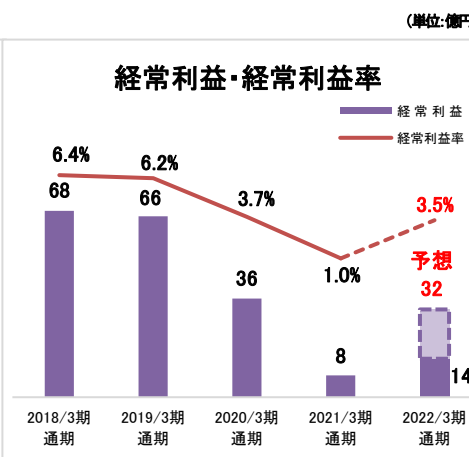
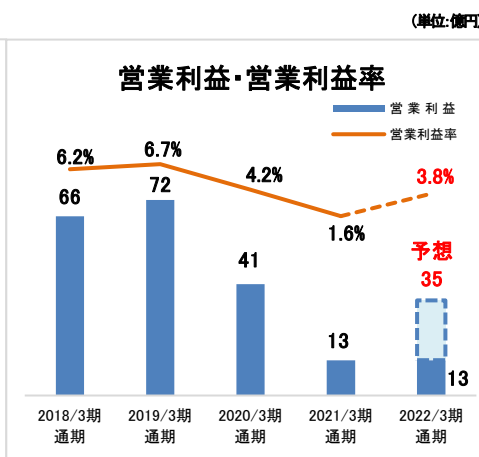
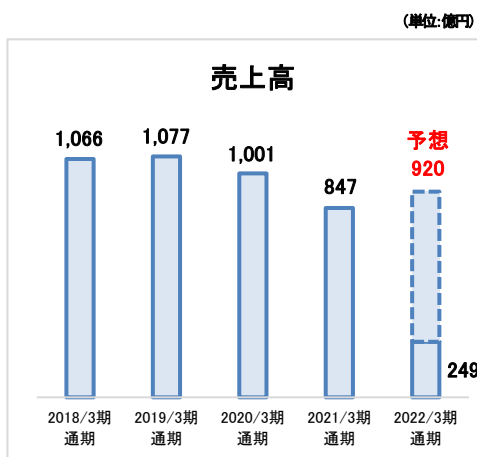


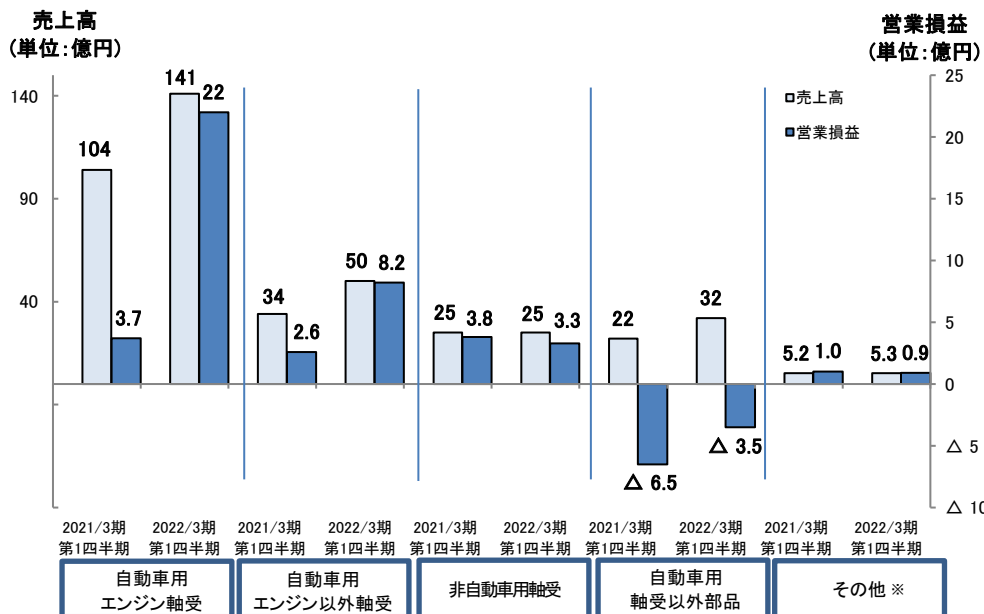
<<配当・配当性向>>

	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期 (予定)
中間	15円	15円	* 20円	10円	10円
期末	15円	15円	15円	10円	15円
年間	30円	30円	35円	20円	25円
配当性向	33.3%	32.0%	60.1%	888.7%	68.4%

* 2020/3期中間配当...普通配当(15円)+記念配当(5円)

2. 連結業績/設備投資・減価償却費 推移

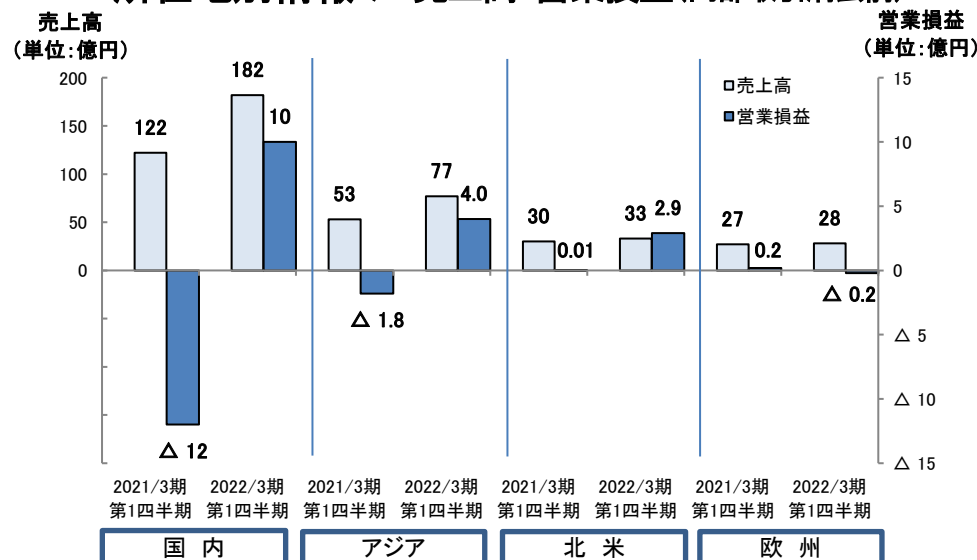


3. セグメント別情報 / 売上高・営業損益(セグメント間消去前)


※「その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、電気二重層キャパシタ用電極シート、金属系無間軸受事業、ポンプ関連製品事業、不動産賃貸事業等を含んでいます。

【売上高】 ◎増収要因 △減収要因 (単位:百万円) **【営業損益】** ◎増益要因 △減益要因 (単位:百万円)

セグメント	売上高構成比 2022/3期 第1四半期	前年同四半期比 増減額 (増減率)	増減要因項目	前年同四半期比 増減額 (増減率)	増減要因項目
自動車用 エンジン軸受	55.4%	3,620 (34.5%)	◎日本:乗用車向けのコロナからの大幅な回復及び開拓、輸出用トラック向け(中国、東南アジア、中東向け)需要回復による受注増 ◎国内ターボチャージャー用軸受の堅調な需要回復による影響 ◎北米:コロナからの堅調な回復 ◎中国:コロナからの需要回復による反動増	1,895 (507.5%)	◎国内外のコロナからの回復に伴う増収による影響
自動車用 エンジン以外軸受	19.8%	1,618 (47.1%)	◎世界的な自動車部品メーカーのコロナからの回復	558 (210.0%)	◎国内外のコロナからの回復に伴う増収による影響
非自動車用軸受	10.0%	△ 50 (△1.9%)	△船舶向け低速用では、継続的な中国向けの新規開拓に伴う受注増があったものの船用業界の全体的な需要落ち込みによる影響 ◎建設機械関連:アジア(特に中国)、中南米の需要の回復及び在庫積み上げによる受注増の影響 △エネルギー分野向け:水力発電機用軸受ユニットの新規受注増があったもののガスタービン・蒸気タービン用軸受の受注減	△ 58 (△14.9%)	◎建設機械関連の増収による影響他 △エネルギー分野の減収による影響
自動車用 軸受以外部品	12.7%	966 (42.7%)	◎飯野グループ:日本、北米の堅調な需要の回復及び中国での新型コロナからの回復による反動を受けた受注増 ◎アルミダイカスト製品:タイの自動車産業のコロナからの回復	299 (45.5%)	◎飯野グループ:需要回復による増収、生産性向上・合理化努力による利益改善の影響 ◎アルミダイカスト製品:タイのコロナからの回復に伴う増収、労務費等の削減努力による利益改善の影響
その他	2.1%	6 (1.1%)	◎中国:欧米経済の復調による建機・工作機械用の需要回復の兆し	△ 8 (△8.4%)	
セグメント間消去		△ 36		△ 232	
全体合計:		6,124 (32.5%)	◎全体的な円安による為替影響	2,454 (-)	

4. 所在地別情報 / 売上高・営業損益(内部取引消去前)

【売上高】 ◎増収要因 △減収要因 (単位:百万円) **【営業損益】** ◎増益要因 △減益要因 (単位:百万円)

地域	売上高構成比 2022/3期 第1四半期	前年同四半期比 増減額 (増減率)	増減要因項目	前年同四半期比 増減額 (増減率)	増減要因項目
国内	56.7%	6,076 (49.8%)	◎乗用車向けのコロナからの大幅な回復及び開拓、輸出用トラック向け(中国、東南アジア、中東向け)需要回復による受注増 ◎国内ターボチャージャー用軸受の堅調な需要回復による影響	2,367 (-)	◎自動車関連のコロナからの回復に伴う増収による影響 ◎飯野グループ:需要回復による増収、生産性向上や合理化努力による利益改善の影響
アジア	24.1%	2,409 (44.9%)	◎中国:コロナからの需要回復による反動 ◎タイ:自動車産業のコロナからの回復(主にアルミダイカスト製品)	596 (-)	◎中国:コロナからの回復、新規開拓活動による増収の影響 ◎タイ:コロナからの回復に伴う増収、労務費等の削減努力による利益改善の影響(自動車関連及びアルミダイカスト製品)
北米	10.3%	300 (10.0%)	◎自動車関連のコロナからの回復 ◎建設機械関連:アジア(特に中国)向け、中南米向けの需要の回復及び在庫積み上げによる受注増の影響	291 (-)	◎自動車関連のコロナからの回復に伴う増収による影響
欧州 (ロシア含む)	8.9%	100 (3.6%)	◎自動車関連のコロナからの回復の兆し	△ 49 (-)	
内部取引消去		△ 2,761		△ 751	
全体合計:		6,124 (32.5%)	※セグメント別情報にコメント同じ	2,454 (-)	

(注)業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。